

ホーム名:みとうグループホーム公園通り(1Aユニット)					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に愛され信頼されるホームを目指し家庭的な環境と地域住民との交流のもとで、尊厳あるその人らしい生活をめざします。」管理者と職員は毎朝朝礼時に理念の唱和を行い理念を共有し、実践につなげている。	事業所理念には、地域の中で共存していく福祉施設である事と、利用者には、個人としての尊厳、その人らしさの確保、家庭環境の生活の享受、等を実現させる為に努力をする事が明確に謳われている。職員による唱和によってその共有化は図られている	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には、お声掛け頂き出来るだけ参加させて頂いている。コロナ禍で地域との交流は中々実施は出来ていない。	現在はコロナ禍の為、感染防止対策を優先的に実施しなければならない状態にある。地域活動も、されていない場合が多々あり、暫くは地域との直接的な交流は難しい情勢である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度行われる運営推進会議や、催事の際等、地域住民の方をお招きし参加して頂き、利用者様へのご支援、ご理解に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度の運営推進会議で、取り組んでいる内容や事故・ヒヤリハット等の報告をして、助言や意見等を頂いてサービス向上に活かしている。	コロナ禍以前は地域包括支援センター職員、町会会長、オレンジリング関係者、家族代表等がよく出席されていた。欠席者には書類送付し関わってもらっている。事業所は運営状況・研修報告や行事報告、ヒヤリハット等など議題にされ支援向上の為に協力を願っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	大阪市内に運営推進会議記録を提出したり、研修への参加対応を行っている。	市町村と連携を取られよう務められており、毎回の推進会議の議事録をメール伝送されたりして事業所の運営状況を開示されている。各種の研修についての問い合わせもされており積極的であろうとする姿勢が見られる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員は、身体拘束の内容を理解・認識しマニュアルを作成しており、職員に回覧周知の徹底をはかっている。 玄関の施錠については家族様の同意と昨今の事故の件もあり、ご理解していただいている。	身体拘束の排除、拘束のない支援の徹底化をさせる為のマニュアルを策定されており、職員にも回覧周知をさせている。全職員の拘束はしないとの意識は明確である。運営規定や重要事項にも関連項目として記載されて家族にも配布されている。外部からの不審者侵入防止の為に、施錠はされているが家族も同意はされている。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所などでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての研修に参加して、また社内で勉強会や研修を行って話し合いの場を設けている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>日常生活自立支援事業や成年後見人制度については、研修に参加し必要とされる方には活用して頂き、支援を行っている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に至るまでの段階で、施設見学に来て頂いた際にホームの理念や方針を説明し、不安の無いよう対応させて頂いている。ご本人様の意向や家族様の意向を伺い、個々に合わせた柔軟な対応をしている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族様が来所された際、職員がサービスに関する聞き取りを行い、ご本人様や家族様の希望・不満を話したり表せる様、対応する。苦情相談や意見箱を設置し、すぐに対応出来る体制をとっている。</p>	<p>家族の来所時の面談の時や、運営推進会議にも参加し発議することも可能であり、また書面での意志表示も意見箱を通じて可能である。意見、要望の件は、ミーティングで話し合われ運営に反映できるように努められている。</p>	
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>管理者やリーダーだけでなく、職員全員で一緒にミーティングを通じて運営に関しての話し合いを行える様に取り組んでいる。</p>	<p>職員の意見も月2回のスタッフ会議で話し合われるようにされている。回数が比較的多いのはシフトの関係で参加できない場合を防ぐためである。事業所はできる限り、日頃から支援に従事している職員の意見を受けとめられるようにされ、反映できるように努めている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者が自ら職員と個別面談の場を持ち、職員の話に耳を傾け個々の能力・長所を生かし安心かつ学べる職場環境に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新任OJT(社内研修)を理解し能力等を見ながら、個々に応じた育成に努めている。現任も同様に社内外研修に参加し、参加後は研修報告として全員に報告書の回覧やスタッフミーティングで申し送る。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>代表者は、認定審査会の委員であり。事業所も社会福祉協議会の老人施設部会やグループホーム協議会やグループホームネットワークにも参加し、サービス向上に取り組む。</p>		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階に築いていく信頼関係を利用者様の現在の状況を把握し、しっかりとした話し合いの場を持つ事を心掛けており、不安や求めておられる事を傾聴し受け止める努力をしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様からの相談を段階より話し合いの場を持つ事を心掛けをして、自宅へ訪問したり、ホームを実際に見て頂き、言葉だけでは表せない部分についても把握して頂ける様に時間をかけ向き合っている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、安易な入居は勧めずに本人様や家族様の状況を傾聴して、介護保険全体の話をする事から始めている。また、管理者は、グループホームだけでなく、居宅介護支援事業所や訪問介護、デイサービスセンターでの職務経験もあり、ご本人様にとって一番必要とされるサービスを本人様、家族様交えて薦める事が出来る。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は、人生の先輩であるという考えを職員全員が共有し、利用者様から教えて頂く事もあり、利用者様が活躍できる場面をより多く持つて頂けるような環境を整える。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当事業所は、職員1人だけで考えるのではなく、家族様と話し合い、一緒になってご本人様のご支援に取り組んでる。		
20	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけでなく、馴染みのある知人様にもお気軽に、ホームに面会や遊びに来て頂ける様、取り組んでいる。また、馴染みのある場所に出かける支援にも取り組んでいる。	家族は月に2、3回は来てくれている。急な用事のある時は電話で連絡されてくる。お茶仲間の方は2、3ヶ月に一度は気軽に来てくれている。髪染めを希望する人には馴染みの美容院に連れて行かれるなどの支援をしている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で楽しんで頂ける事を日々の生活の中で自然にみつけて、お互いコミュニケーションが取れる様、ご支援する。また利用者様同士好きな人間関係を保てる様、ご支援する。馴染みの利用者との交流も出来ている		
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても利用者様や家族様との関係を断ち切らない様、お付き合いを心掛けている。行事やイベントには、一筆添えて招待状を郵送している。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成ファイルの元、定期的にケアカンファレンスを開き、情報の共有をする。また、コミュニケーションを常にして、日常的に利用者様本位で接する。言葉だけでなく普段からの仕草や表情から、ご本人様の思いや意向を把握できる様、取	申し送り時の報告、介護日誌に記録されている生活状況も共有化が図られている。毎日における利用者との会話からくる感触も大切な要素とされている。職員はいろいろな面を通して利用者の思いや意向の把握をしようとされている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	家族様からの情報や本人様から聞き取り等、アセスメントシートに記入する。日々の様子で変化があればすぐに記録や申し送り等で情報の共有をして支援経過に記載し把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様1人1人の日課表を作成し、普段の過ごし方を観察して。また、そのことにとらわれず体調や状況に考慮し意向に沿う日々が過ごせる様、ご支援する。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを定期的に行い、体調等の変化の際、利用者の意向に沿える様、家族様も交えた話し合いを継続する。状況の変化があった時には、本人様や家族様、主治医を交え話し合い、介護計画の見直しを行っている。	利用者の日頃の生活状況は日誌に詳細に記録されており介護計画の作成への要素とされている。ケアカンファレンスの際には家族、利用者、関係職員も含めて、3か月間の目標介護計画を作成されている。利用者の状況変化に応じて適切な見直しは常になされており、現実に応じた支援を実施されている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の些細な変化も記録し、職員間で申し送りを行う。情報の共有に努め、実践に反映する様に心掛けている。スタッフミーティング等、介護支援専門員にも出席して頂き、介護計画の見直しを取り組む様、努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	24時間業務の特性を生かして、ご家族様の面会時間の融通や、希望があれば、食事や宿泊やレクリエーション等の参加も提供できる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望時には、公共交通機関を利用して外出援助等、行っており、また外出先には地域で催している行事やイベントにも参加している。	
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様が以前から、掛りつけていた馴染みの医師に往診に来て頂いており、主治医と相談しながら職員が付添いながら、その他の外部通院介助等、適切な医療を受けられる様に支援している。	事業所の協力医院の診察が主体ではあるが、利用者が長年受診されてきた、かかりつけ医との絆もしっかりと認められている。診断の結果についてはかかりつけ医と協力医院との間でよく話し合われるため、職員にとっても分かりやすい診断情報になっている。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>他事業所の医療連携体制・訪問看護師等と連携し、週一回の訪問や気軽に相談や定期的にカンファレンスを行っている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者様が入院された際、お見舞いに行き、1日でも早く退院が出来る様に、ご家族様や病院関係者等と連携し、都度カンファレンスを行っている</p>		
33 12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期に入る前に主治医と家族様と本人様と話し合いの場を持ち、全員で方針を共有している。本人様の意向を最大限考慮した対応し、文章化して確認している。状況が変わる度に話し合いの場を設けて、今後の支援について検討や準備を行える様にする。</p>	<p>事業所との取り決めで重度化に入ってからの方針については、再度家族との間で話し合いが行われている。状況の変化に対応して、家族の要望や意向もよく聞き入れられた介助や支援をされている。具体的な支援内容については事業所の看取りの指針に記載されており、家族も承認され同意書を得られた上でターミナルケアへ入られている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急対応マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。社内研修として消防署よりAEDの講習や救急救命講習等も実施し、実施報告書を回覧する。</p>		
35 13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>1年に2回、昼夜を想定して消防署の指導の下、災害消防訓練を実施する。その際には、地域の方々にも参加を呼びかけ、ご協力頂いている。</p>	<p>災害時に備えて年に2回は避難訓練を実施されている。利用者の避難については消防署の指示に従って職員が利用者を、2階1階のそれぞれの指定された所まで移動されており、救出される想定までの訓練をされている。</p>	

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護や秘密保持を徹底して、職員の意識向上を図っている。また、利用者様の誇りやプライバシーを損ねることのない様、言葉かけや対応に注意している。	人格の尊重、プライバシー確保の意識向上については、常に場所や時間に関わらず、職員に話し掛けはされている。また、ガイドラインの供覧も促し、署名も求められており日頃の支援に繋がられている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は常に利用者様が、希望や思いを表せる様な言葉かけを行い、雰囲気作りを心掛けている。また、利用者様の表情、仕草を観察しながら、本人様の納得できる日常生活が保たれる様に支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日1日を大切に考えて欲しいという代表者の思い。利用者様の生活リズムを大切に考え、1日の流れで、利用者様の体調に合わせる気持ちで、何よりも尊重し、個別性のある支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望に応じる身嗜みを取り入れ、理美容は希望時に行きつけの理美容室に行ける様、職員が付き添いをしている。また、利用者様の状態に応じて訪問理容等も利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表は季節の旬の物を取り入れながら作成している。日々利用者様の体調変化や好みに合わせ調整している。食事は調理盛り付けや後片付け等も職員と一緒にいう。同じテーブルを囲い職員と一緒に食事をしている。	アレルギーを持っている方には特に気を付けて献立している。季節の旬の物を取り入れて新鮮さを与えている。日々の利用者の体調の変化や好みに合った盛合せをしている。食事は職員と共に頂き皆で楽しく食事時間を過ごされている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立作成。水分量は主治医に報告し、利用者様ごとに応じた量を摂取出来る様、努めている。また、ケア記録に食事量や水分量を記入し、献立表に個別対応項目を入れて、職員全員が把握する様にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに取り組んでおり、1人1人の状態や状況に応じて声掛けや環境設定等の支援を行っている。また、定期的な訪問歯科（居宅療養管理指導者）に、専門的口腔ケアや必要な治療をして頂き、定期的にカンファレンスを行っている。	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ケア記録を活用し、1人1人の排泄パターンを把握する。また、必要な利用者様には定期的に、自尊心を傷つけない様な声掛けや支援を行い、排泄の失敗やオムツやリハビリパンツの使用を減らす様に支援している。	協力医院からの入所者が比較的に多く来られており、自立ケア記録をよく活用されている。職員は各利用者の排泄パターンもよく知っており、利用者の気持ちを汲んであげるなどもされ、安定した排泄支援の取り組みを実施されている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と連携して、各利用者様の便秘の原因対策に取り組み、外出やレクリエーションを通じて自然に体を動かして頂く様、取り組む。また、食事に関しても繊維質や牛乳等を用いて対策する。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	各利用者様の生活習慣や希望に合わせて、入りたい時に入浴して頂く様、支援する。また、季節に応じてゆず湯、菖蒲湯等を提供する。入浴を好まれない利用者様に対して、声掛けや手順の統一、拒否の強い利用者様には時間をずらしたり介助者を換える等して、入浴して頂ける様に支援している。	週に2回以上入浴支援をしている。季節に応じてゆず湯や菖蒲湯を楽しんでもらっている。日頃は温泉入浴剤を使用したりする。湯は一人ごとに交換している。入浴を好まれない利用者には時間をずらしたり、介助者を交替させるなどの工夫もされ入浴支援に繋がられている。

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>各利用者様の生活習慣に合わせて、居室で安眠やフロアでの休息等、穏やかな環境を作る様に配慮する。また、利用者様の状態に合わせて傍らに付き添いし、気持ちよく休息等が取れる様に支援し、薬の説明書きを職員全員が閲覧出来る様にファイルに収めて、必要な時に閲覧している。薬の変更があった時は、業務日誌を用いて、職員全員に周知を図り、様子観察する。また、薬剤師(居宅療養管理指導担当)と連携し薬の知識も得</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の説明書きを職員全員が閲覧出来る様にファイルに収めて、必要な時に閲覧している。薬の変更があった時は、業務日誌を用いて、職員全員に周知を図り、様子観察する。また、薬剤師(居宅療養管理指導担当)と連携し薬の知識も得</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>1人1人の生活歴に合わせて、外出や楽しんで頂く事が継続して行っている。スーパー等への買い物、園芸活動等を支援している。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>希望があれば、いつでも戸外に出掛けられる様、支援する。外出が困難な利用者様でも屋上庭園での外気浴や日光浴等、季節を肌で感じて頂ける様に支援している。</p>	<p>春の季節には桜見物に、12月には夜の御堂筋のイルミネーションを見に行ったり、外出が困難な利用者には屋外庭園での外気浴、日光浴等を肌で感じて頂けるような支援をしている。出来る限り無理のない範囲での戸外支援の実現に取り組まれている。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭の大切さを大事に考え、家族様とも相談して買い物等に使えるように支援する。また、さりげなく管理の支援を行いながらトラブルを未然に防ぐ様に家族様に報告している。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話や手紙は、家族様や大切な方々と繋げる大切な手段だと考え、希望者には携帯電話を所持して頂いている。また、事務所の電話も希望時にはいつでも使用して頂いている。</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>事業所内で四季を感じて頂ける様、生活して、屋外菜園で作物等を利用者様と共に育み。また目につきやすい所や居室扉には利用者様と一緒に作成した四季の物を展示している。</p>	<p>共用空間として利用されているリビングは十分な広さがあり車椅子で移動する時はかなり楽といえよう。バリアフリーでもあり歩行にも安全である。壁や天井は明白色であり、全体が明るい。壁には工作品が飾られてリビング内はどことなく温かさが感じられている。特に不快に感じる要素もなく、利用者は長時間ここで寛がれているに適した環境といえる。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアにソファを置いて、くつろいで頂ける様、配慮している。また、利用者様同士が自由にフロアを行き来して、仲の良い方々との交流をしている。屋上へも自由に出入りでき、外気浴や日光浴を利用者様がしたい時に行える様、支援して</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者様が自宅で実際に使用していた、馴染みのある家具や電化製品を持ち込んで、出来る限り自宅で過ごしていた状態に近づけられる様に支援している。</p>	<p>利用者と家族は相談しながら普段から使い慣れた家具や電化製品などを居室に持ち込まれて、自宅に居るような雰囲気作りをされている。居室の掃除も週2回はされており、利用者が毎日を気持ちよく過ごせるような配慮がなされている</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>必要な場所に手すりを設置しており、建物はバリアフリー設計で車椅子を使用されている利用者様も安心した日常を送れる様、配慮する。利用者様には、自身の残存機能を発揮しながら日常生活を送って頂ける様、安易な支援を行わないようにしている。</p>		

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができて いる (参考項目: 9,10,19)	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目: 9,10,19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの 拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えて いる (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思 う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思 う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない